

エリアコーディネーター育成講座 受講者のいる学校への 巡回相談

市内2校(小中学校)の 巡回相談を受けた時の振り返り

「次世代コーディネーター講座を受講」 【以下、エリアコーディネーター(AC)とコーディネーター(CO)と示す】
第1回目 6/12 <この時にACIについて知った。>
第2回目 7/18 *小中巡回相談には、本校の他のCOが行った。(本校COは3名)

5月14日巡回相談: A小学校(特別支援学級児童の相談)

* AC受講中の先生とCOの先生が別々にあり、巡回相談の窓口はCO
次世代コーディネーター講座の受講前であったので、ACの取り組みをよく知らないままに巡回相談を実施
事後検討会には担任とCOのみ参加
ACとの連携や役割分担を意識しないまま助言

10月7日巡回相談: B中学校(通常学級生徒の相談)

11日巡回相談: B中学校(特別支援学級生徒の相談)
* AC受講中のCOの先生
巡回相談の窓口はCOであったが 事後検討会には担任のみ参加

市のAC受講対象の先生とつながる…… その後の疑問

・(連携しようとしたが、…)

- ・小中学校のAC受講対象の先生に電話で連絡をとり、今後、特別支援学校とAC受講対象校が情報交換や連携を取っていくことを確認。
- ・A小学校の「エリアコーディネーター育成講座」受講後のレポートを読ませてもらった。

・(疑問)

- ・「今年度は、AC受講中の立場として何をされましたか?」と聞くと、小中どちらの先生も「特に何もしていません。」と言われた。
- ・「何をすればいいのかわからなくて、」と戸惑った様子であった。
- ・AC受講中の先生が、小中学校中学校共に検討会にも参加されなかったことを考えると、あり方はどうあるべきか考えさせられた。
- ・1担任として代わりの先生が、ACはどのような立場で動いているのだろうか?
- ・ACとどのように連携していくべきか? ACとCO兼任の学校はどのように動くのか? ACとCOの違いがよくわからない。

わかったこと

- ・12月20日にA市教育委員会に電話で「今年度のA市のACの在り方はどのようなものですか?」と問い合わせた。
A市教育委員会 特別支援担当の回答:「A市には、エリアコーディネーターはいません。」
「小中学校の2人の先生は、エリアコーディネーターの研修講座を今年度受けているだけです。」
- ・「任命されていない、ということとは、今後、誰が任命するんですか? A市が任命するんですか?」
⇒特別支援担当の回答:「よくわからないんです。」

「日頃のこと」から、「ACとの連携でどう生かすか」

(日頃、思うこと)

「インクルーシブ教育って」

- ・電話相談に保護者からよくかかってくる内容: 毎年、特別支援学級担任がこう言う憂鬱な言葉を。担任から「特別支援教育が初めてです。」と言われることも多く繰り返している。毎年の積み重ねがなく、特別支援学校に転校を考えると言う職も多い。交流学級に行きたがらない。
- ・保護者が各小中学校のCOの存在を知らない。各学校にはCOという先生がいるということも伝え、担任との間に入って相談のにつけてくれることを紹介したこともあった。各学校の4月の学校行事で紹介すべきだが、A市の小中学校の学校行事等に載せている学校を見たことはない。
- ・転学相談の結果、特別支援学校へ来る保護者の確信が強い。地域(小中学校)への思い。
- ・通常学級担任が、「この子だけ特別なことではできない。」と言うことも。対象児に対する疲弊感、ユニバーサルな授業づくりの考え方を伝えている。
- ・通常学級の対象児やグレーゾーンの子どもの2次の障害。

(小中学校のACの良い点) 「ACIに伝えていきたいこと」

- ・通常学級担任経験者ということで、幅広い視野で支援方法を照準調整できる。
- ・特別支援教育と通常学級教育という両方両方からのアドバイスができる。
- ・実際の授業を見てアドバイスできる立場、毎朝の人間関係、学年の人間関係を知っている立場。
- ・子どもの特性など、日ごろの実感をよく知っている。校内リソース(管理職、当きの先生、保健室、特別支援員、SCなど)を生かすアイデアを持っている。誰が力になれるかを見極め、繋ぐことができる。
- ・保護者のことや地域のことをよく知っている。

実践活動の今後に向けて

★つながりを大切に

- ・4校連携会議—— 知的特別支援学校、肢体不自由特別支援学校、聴覚特別支援学校、視覚特別支援学校
- ・A市コーディネーター会議——(市内の小中高のCOの先生が集まる会)
- ・A市地区別担当者会——(A市内を6か所に分け、幼・保・小・中の特別支援担任が集まり情報交換をする会)
- ・地域特別支援学校ネットワーク連絡会議
- ・発達特性事例研究会(総合医療センター主催) * 自主参加 < 多様な職業の集まり
医師、看護師、(保・幼・小・中・高)教師・養護教諭・園長・校長、CO、SC、SSW、支援員、教育委員会、臨床心理士、療育施設、デイサービス、相談支援、就労支援、福祉、保健

★引き出しを増やす

- ・外側へのアプローチ。今までの巡回相談の中で、のど似た事例から、リソース探し、関係機関紹介。今後の連絡を考えることも大事なことで(情報把握)。
- ・内側へのアプローチ。支援方法の紹介。ユニバーサルな授業づくり。

地域支援作りへの提案

★つなぐ役割

- ・「引継ぎの大切さ」(連携・引継ぎシート、個別の教育支援計画、共通の観点を持ち理解を促す)
- ・「グレーゾーンの子どもの支援方法を一緒に考える。視点の持ち方」

★広げる役割 連携

- ・幼稚園、保育園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校
- ・管理職、教員・養護教諭・特別支援員・ボランティア
- ・教育委員会・SSW・SC
- ・相談支援
- ・療育
- ・医療・薬 医師・看護師
- ・放課後デイサービス
- ・進路先、就労事業所
- ・福祉、保健
- ・地域、保護者

